



氏名 築島 尚 (つきしま ひさし) 1964年生
所属 法学部・法学科・助教授
Tel 086-252-1111
Fax 086-251-7500
HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>

ひとこと：戦後ドイツの官僚人事について、政官関係を中心に研究しています。

長期的には、日本とドイツの官僚制や政官関係の歴史を比較することで、両国の統治構造の特徴を明らかにできればと考えております。

(岡山大学広報誌『いちよう並木』No. 17、2003-12に関連記事があります。)

専門が行政学なので、自治体で、関連する委員をいくつかお受けしたことがあります。

1. 政官関係

日本の代表的な政権党では、代議士が政治資金と選挙における票を、長らく個人の責任で集めてきました。これに対してドイツでは、党執行部が政治資金の配分や誰を議員にするかについて実質的な影響力を持ち、政党が一定程度集権的な組織となっています。これにより、政権党が、官僚制に対して組織として指導力を発揮できると考えられます。

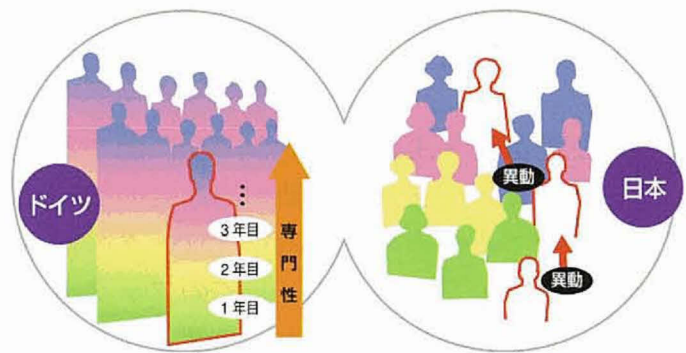


ドイツ国旗

また、ドイツには、政治的官吏という制度があり、政権党が次官・局長といったトップの官僚をいつでも休職させることができます。

2. 官僚人事

日本の官僚は、「渡り鳥」といわれるように1、2年で次々とポストを渡り歩きますが、ドイツ官僚制では、生涯に数度しか人事異動のない非流動的人事制度が採られ、官僚が長期間一つのポストに留まります。こうして高い専門性を身につけた官僚のなかには、政権党におもねることなく、矜持をもって仕事を行う者もいます。



官僚制の日独比較

3. 統治構造の特徴

日本とドイツの政治制度や官僚制にはよく似た面があります。両国とも議院内閣制を採る一方、戦前日本の官吏制はドイツから制度の枠組みを輸入したともいわれています。それでは、なぜ、両国で官僚制のあり方に違いが生じてしまったのでしょうか。まず、明治期に枠組みを輸入する際に官僚制が日本に合うように換骨奪胎されたのではないかとの推測が成り立ちます。また、統治構造というより大きな視点に立って統治エリートとのかかわりで官僚制と政党を捉え直すとさらにわかりやすく説明できるのではないかと考え、両国の歴史を勉強しています。

キーワード：ドイツ、日本、人事、官僚制、政党、政官関係、統治エリート